

その後いがかお過ごしますか？プロジェクト



とよた都市農山村交流ネットワーク



対応してくれた人の名前：山本薫久(代表)
 調査員：沖章枝、松井賢子
 レポート作成者：沖章枝
 取材日：2016年11月8日
 取材場所：とよた都市農山村交流ネットワーク事務所



活動内容(「山村再生担い手づくり事例集」より)

活動の目的は、都市と農山村が交流する場をつくることによって、都市部の人たちに農山村の魅力を伝えるとともに農山村を活性化すること。足助、旭、稲武、下山、小原、松平など豊田市の農山村域でさまざまな交流事業をしてきた。旧町村ごとに地域会(6地域会)を組織し、幹事が集まり毎月打ち合わせを行っている。農都交流の取り組み、都市と農山村のネットワークを構築し推進する組織が、とよた都市農山村交流ネットワーク。もっとも力を入れている活動は「セカンドスクール事業」。ひとつは、豊田市内の希望する小学校が行事として2泊3日の農山村体験をするというもの。小学生3人から4人で1軒の農家に泊まり、3日間は田舎の子になる。野菜が大好きになったり、食事作りや後片付けが当たり前になったり、保護者がびっくりするほど子どもたちによい影響を与えている。もうひとつは、希望する小学生が2泊3日や1泊2日で農山村体験できるフリー版を実施している。毎回希望者が殺到し、事業の拡大を目指している。2013年度は約250人の小学生が参加した。その他、広く大人を対象に行っている事業として、農業体験、山里の料理・道具などを手作りする山里の知恵を学ぶ講座、森林の恵みを体験する講座など、多彩な講座を開き、都市の人々が農山村に触れる機会を提供している。

前回の取材後、どのような変化がありましたか？

○おいでん・さんそんセンター発足による活動内容の変化

活動目的の一つの柱であった農山村と都市交流の取り組み・推進は、「おいでん・さんそんセンター」が発足して、とよた都市農山村交流ネットワークの役割としては終了した。「おいでん・さんそんセンター」自身は各団体の活動を基盤にして展開され、今までとよた都市農山村交流ネットワークがやっていた各種事業は「おいでん・さんそんセンター」が推進させている。

しかし、都市農山村交流事業の一つである『セカンドスクール事業』は、現在、とよた都市農山村交流ネットワークの中心的事業として継続している。そればかりか、『セカンドスクール事業』はここ数年さらに発展してきている。1泊2日換算で2012年度は234人の参加であったが、その後300人を超え、2015年度では378人(2012年度の1.6倍)にまで増えてきている。かつては学校単位(5年生対象)の参加だけであったものを、夏休みや春休みには、希望する小学生を対象に豊田市農山村部で受け入れるという「セカンドスクール・フリー版」を実施したことによる成果だといえる。

その他の事業は、とよた都市農山村交流ネットワークとしては中心になってはいないが、かつての関係者と「おいでん・さんそんセンター」などと共に進めている。例えば、広く大人を対象に行っている事業として、農業体験、山里の料理、道具などを手作りする山里の知恵を学ぶ講座、森林の恵みを体験する講座など、多彩な講座を開き、都市の人々が農山村に触れる実践的機会を提供している。

実行委員会をつくって、農山村の地域で活動する様々な団体やグループと、「ほんわか里山交流まつり」、豊田の市街地のど真ん中で「いなかとまちの文化祭」を開催している。延べ数千人の参加を得ている。これらの取り組みによって、多くの市民に暮らしの原点である農山村の自然、営み、文化に注目をしていただいている。

とよた都市農山村交流ネットワークと目的や事業内容がほとんど一致している「おいでん・さんそんセンター」によって、市の組織として都市農山村交流が進められている。このため、高度な協力体制が可能になり、農山村交流の取り組みが活発になってきた。

『セカンドスクール事業』では豊田市教育委員会の協力を得ていて、未来の山村を担う次世代教育となっている。

前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？現在の課題は何ですか？

都市農山村交流が進んでいると手ごたえを感じている。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイデアがありましたら教えてください

いろんなところでみなさんがもうやっておられるので、一緒になってやれば良いと思う。豊田市で完結するのではなく、根羽村とか設楽町とか恵那市とかと結びつくのが大事。この地域は山も海も都会も近いので、年に一回は「流域圏祭り」と称して、事例集に載っておられる団体の交流と市民へのアピールをしていったらどうだろうか。

海・川・山での様々な方々の営みがリアルに体感できる場になるといいと思う。やりやすいと思う。流域圏全体が結びついて一緒にやっていきたいと思っている。

写真



セカンドスクール・夏休みフリー版「山っ子くらぶ」



セカンドスクール・学校版